

2014 年度 学校関係者評価
報告書

学校法人 滋慶学園
札幌ベルエポック美容専門学校

作成日：平成26年5月20日

学校法人 滋慶学園 札幌ベルエポック美容専門学校

第2回 学校関係者評価委員会議事録

議事録：古川

1. 開催日時 平成26年5月20日(火) 10:10~11:05

2. 開催場所 札幌ベルエポック美容専門学校 401 教室

3. 参加者 以下参照

<学校関係者評価委員>

打矢 憲弘	業界関係者（有限会社うちや美容室 代表取締役社長）
穂苺 修一	業界関係者（株式会社美美 営業部長）
室矢 梨花	卒業生代表
島倉 則子	保護者代表
鈴木 康弘	高校関係者（北海道芸術高等学校 事務局長）
伊藤 研介	近隣関係者（伊藤家の食卓 オーナー）

<学校側参加者>

藤井 英嘉	札幌ベルエポック美容専門学校 学校長
齋藤 明宏	札幌ベルエポック美容専門学校 事務局長
母坪 研巳	札幌ベルエポック美容専門学校 教務部長
奈良 理映	札幌ベルエポック美容専門学校 美容師科 学科長
村上 真子	札幌ベルエポック美容専門学校 学生サービスセンター センター長
古川 喜春	札幌ベルエポック美容専門学校 キャリアセンター センター長

4. 会議の概要

① 学校長挨拶

専門学校は大学・短期大学と同等の教育を実現させ、そしてさらに『学校関係者評価委員会』及び『教育課程編成委員会』を実施している旨を含めた挨拶があった。

続いて母坪より「職業教育の重要性」「高等教育機関への期待」「職業実践専門課程の認定」「企業・地域・保護者・卒業生と連携した学校評価」について説明があった。

② 各委員ご紹介

母坪より各委員の紹介があった。

③平成 25 年度自己評価報告

齋藤より平成 25 年度自己評価報告について内容報告があった。

本校は“職業人教育を通じて社会に貢献する”ことを前提に、実学教育・人間教育・国際教育の 3 つの柱と、入学生全員が高い専門性と資格を取得し末永く業界で活躍する人材を輩出することを目的としている。

目的達成のため「退学者 0 名」「就職 100%」「資格取得 100%」「就職先 1 年以内離職 0 名」を目標として掲げている。

『教育内容の特徴』

3 つの特徴を持った教育内容と、4 つの学生サポートシステムを充実させた。

『学校運営』

意思決定システムとして「戦略決定の場」「問題解決の場」「学習の場」を通して構築させた。

『教育活動』

職業人教育＝専門職業教育＋キャリア教育として捉え、入学前教育→在学中教育→卒業後教育とフローで活動してきた。

『教育成果』

- 1) 中途退学者及び年度別退学者の人数報告があった。
- 2) 美容師国家資格取得実績について、通信課程含めた取得率報告があった。
- 3) 就職者数及び年度別離職調査結果について人数報告があった。

『学生支援』

学生一人ひとりに対し、様々なサポート内容について説明があった。

『教育環境』

国際教育の一環とした、外国人講師の紹介や海外研修報告があった。

『財務』

公認会計士と監事による監査を受けているとの報告があった。

『法令等の遵守』

国際規格「TRUSTe」認定校、法令遵守及び自己点検・自己評価実施報告があった。

『社会貢献』

学生サロンを通じた、教育施設の有効活用について報告があった

平成 25 年度重点課題の結果報告として、

- 1) BBB 会議を主体とした『学習する組織』体制の構築を図り効果があった。
- 2) 学生募集目標達成と中途退学防止による収支比率の適正化を図ったが、若干比率は低下した。
- 3) 就職者率向上と離職者率低減に取り組んだが、継続的支援が必要の結果だった。

4) 自己点検及び自己評価、第三者評価に真摯に取り組む、美容師科が職業実践専門課程に認定された。

平成 26 年度重点課題として、次の 2 点を挙げた。

1) 収支比率の適正化

2) 就職者率向上と離職者率低減

④ 評価委員からの評価

教育内容を聞き、現場とのギャップにまだまだ差を感じる。その差を埋めることが、ベルエポックが目標にしている離職防止に繋がるのではないのでしょうか。教育内容に就職後の現実的側面を加えてみてほしい。

(回答)

現場実習含めた教育カリキュラムの中で、就職後をイメージさせる工夫をしているが、今後の改善としたい。

質疑応答及び審議は特になかった。